

新専門医制度 内科領域 モデルプログラム

当プログラムの特筆点を分かりやすく抜粋しました。詳細・お問い合わせはページ下部にある QR コードからご覧いただけます。

希望に応じてフレキシブルに対応出来る内科プログラム

豊富な症例数と
科の垣根を超えた
充実した指導環境

当科には内科標準コース、Subspecialty 重点コースの2コースがあります。内科標準コースでは連携施設での研修を何年目に行うかをプログラムの任意に設定出来ます。一方の Subspecialty 重点コースでは Subspecialty に比重を置く期間をフレキシブルに対応できます。また 2017 年に腎臓病センターが設立され腎臓移植も診られる内科医の育成も日々行われています。



Subspecialty 重点2年コース

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考
専攻医 1年目	Subspecialty 選択科						他内科 1		他内科 2		他内科 3		【目標】 疾患群 20 以上 症例数 40 以上
							Subspecialty 選択科						
	1年目にJMECCを受講(プログラム要)												
専攻医 2年目	他内科 4		他内科 5		他内科 6		他内科 7		他内科 8		他内科 9		【目標】 疾患群 45 以上 症例数 80 以上
							連携施設研修						
										病歴提出準備			
専攻医 3年目	連携施設研修 (Subspecialty 重点期間はプログラム内で最長 2 年)												【修了要件】 疾患群 56 以上 症例数 120 以上 病歴要約 29
	初診＋再診外来を週に 1 回担当(プログラム要件)												
	安全管理セミナー・感染セミナーの年 2 回の受講・CPCの受講												

※ Subspecialty 重点コースでは、Subspecialty に比重を置く期間を2年間設定する。このSubspecialty の設定時期及び連携施設での研修時期を何年目にするかはプログラムの任意とする。(最終的に修了要件を満たすことが重要)

◎ 特別地域連携プログラム枠 日本専門医機構が定めた医師少数地域(9県)の連携施設で研修を1年間行うプログラムも可能

先輩医師・現役専攻医の声

肺炎や尿路感染症など、腎疾患以外を担当することも多く様々な症例を経験できます。当院は大学病院ですが市中病院のような要素があり幅広く学ぶことができる病院だと思います。腎臓病センターは腎臓内科と腎臓外科で構成されており、診療科の垣根が低いです。実際に、外科の先生にシャントなどの手術を依頼すると快諾してください。そして腎臓病センターは移植と病理学に特化しており満遍なく学ぶことができます。

腎臓内科
専攻医 山口 咲子 先生

循環器内科は救命救急をはじめとする急性期医療に深く携わることができ、心臓という生命維持に直結する臓器を扱うため、患者さんの生死に大きく関わる責任とやりがいがあります。また、急性期治療だけでなく慢性期まで継続して診療できる点にも魅力を感じています。さらに、カテーテル治療やペースメーカー植込みなど幅広い手技に加え、ICUでの全身管理まで経験できます。

循環器内科
専攻医 池谷 太郎 先生



プログラム統括責任者
腎臓内科・血液浄化療法室
科長
副院長 尾田 高志

腎臓病センター
ホームページ

hachioji-kidney.jp

※ 上記 QR コードは内科専門医プログラム責任科のホームページに飛びますが、内科領域内の各診療科の選択は可能です。



◀ 見学・お問い合わせはこちらから

メール : h-senmon@tokyo-med.ac.jp
電話 : 042-665-5611 (代表)

内科専門研修プログラム概要

h-internal-medicine.com

